

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月14日

【四半期会計期間】 第35期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第34期 第2四半期 連結累計期間		第35期 第2四半期 連結累計期間		第34期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(千円)		7,354,636		8,089,676		14,941,395
経常利益又は経常損失()	(千円)		223,776		11,191		251,974
四半期(当期)純損失()	(千円)		292,072		72,783		474,483
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		290,834		82,104		472,332
純資産額	(千円)		4,908,729		4,644,009		4,726,951
総資産額	(千円)		14,060,606		13,553,402		14,132,596
1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)		13.65		3.40		22.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		34.9		34.2		33.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		159,164		120,726		614,136
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		11,836		193,752		60,458
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		335,844		469,094		669,260
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		508,341		842,231		996,849

回次		第34期 第2四半期 連結会計期間		第35期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)		9.66		0.32

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、連結子会社のうち、(株)サリックスマーチャンダイズシステムズ(存続会社)と(株)デイリーエクスプレス(消滅会社)及び(株)相澤(存続会社)と(株)二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかに回復傾向にあるものの、長期化する円高、デフレ等の影響から依然として先行き不透明な状況が続きました。

外食業界におきましては、食中毒事件や放射性セシウム汚染牛肉等の風評被害に苦戦した昨年に比べると客数は大きく回復しているものの、原材料価格や電気・ガス等のエネルギーコストの上昇等、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは提供する商品の「安全・安心」に加えて、安楽亭の楽しさを伝える様々なフェアを行ってまいりました。また、低カロリーで柔らかい赤身肉のメニュー等を開発することで、新たな顧客層の開拓にも取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高80億89百万円（前年同四半期比10.0%増）、営業利益46百万円（前年同四半期は営業損失1億68百万円）、経常利益11百万円（前年同四半期は経常損失2億23百万円）、四半期純損失72百万円（前年同四半期は四半期純損失2億92百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

当第2四半期連結累計期間に4店舗を閉鎖した結果、安楽亭業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は200店舗であります。内訳は直営161店舗、暖簾5店舗、F C 34店舗であります。

販売促進につきましては、「生ビール&焼肉フェア」といった安楽亭の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。また、キャンペーンを月例の定例タイミングのみならず〔一週間限定〕や〔店舗・地域限定〕の特別企画など、趣向を凝らした新たな取組にも着手しております。また、メールマガジンの配信では、新規登録時特典の開始につれ累計会員数が大幅に増加しております。

商品開発におきましては、近年利用の増加が顕著なシニア層ないし女性層に訴求する新商品としてヘルシーな赤身肉の焼肉商品や、お一人様向けの定食商品のご提案を続けております。また、仕入/製造/物流/販売を一貫する当社サプライチェーンを基盤とした衛生管理マネジメントを活用し、厚生労働省が定めた「生食用食肉の規格基準」を充足する牛ユッケの販売を再開しております。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は68億67百万円（前年同四半期比10.0%増）となり、セグメント利益は2億59百万円（前年同四半期比358.7%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、F C 2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「生ビールクラッチフェア」、「ホルモン食べつくし祭り」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は9億22百万円（前年同四半期比14.2%増）となり、セグメント利益は61百万円（前年同四半期比584.8%増）となりました。

その他業態

当第2四半期連結累計期間に1店舗を出店した結果、その他業態の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は17店舗であります。内訳は直営9店舗、暖簾2店舗、F C 6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「楽コンセプト（焼肉）」、「まんぼく（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「和牛カルビ屋（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「龍饗（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「A G R I C O（イタリアンカフェ）」、「K A R I N（スンドゥブカフェ）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は2億99百万円（前年同四半期比1.9%減）となり、セグメント損失は27百万円（前年同四半期はセグメント損失28百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ5億79百万円減少し、135億53百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したこと、有形固定資産の売却及び減価償却等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ4億96百万円減少し、89億9百万円となりました。これは主に、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ82百万円減少し、46億44百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度と比べ1億54百万円減少し、8億42百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失の計上36百万円がありましたが、減価償却費の計上1億76百万円、減損損失の計上42百万円等により、1億20百万円の収入となりました。前年同四半期は1億59百万円の支出でありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が80百万円ありましたが、有形固定資産の売却による収入1億54百万円、敷金及び保証金の回収による収入1億30百万円等により、1億93百万円の収入となり、前年同四半期と比べ1億81百万円の収入の増加となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出4億2百万円、割賦債務の返済による支出41百万円等により、4億69百万円の支出となり、前年同四半期と比べ1億33百万円（前年同四半期比39.7%）の支出の増加となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(注) 提出日現在発行数には、平成24年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
豊山開発株式会社	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	2,449	11.38
柳 時機	さいたま市浦和区	1,710	7.95
アサヒビール株式会社	墨田区吾妻橋一丁目23 - 1	1,001	4.65
柳 允	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 允 寿	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 詠 守	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 京	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 先	文京区小日向	559	2.60
柳 朱 理	さいたま市浦和区	559	2.60
柳 俊 勲	さいたま市浦和区	559	2.60
ゆたか建設株式会社	越谷市南越谷一丁目17 - 5	425	1.97
株式会社サリックス	さいたま市中央区上落合二丁目3 - 5	399	1.85
柳 慧 承	さいたま市浦和区	330	1.53
柳 賢 承	さいたま市浦和区	330	1.53
計		10,566	49.13

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 109,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,199,000	21,199	
単元未満株式	普通株式 196,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,199	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式822株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	109,000		109,000	0.51
計		109,000		109,000	0.51

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役専務	常務取締役	柳 先	平成24年8月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	999,864	845,246
受取手形及び売掛金	288,272	260,037
商品及び製品	89,159	122,446
仕掛品	326	202
原材料及び貯蔵品	230,144	259,610
前払費用	216,623	213,137
繰延税金資産	2,733	1,103
その他	129,359	126,451
流動資産合計	1,956,482	1,828,235
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,697,949	2,559,808
機械装置及び運搬具（純額）	19,958	19,552
工具、器具及び備品（純額）	75,069	75,810
土地	5,991,424	5,814,908
リース資産（純額）	20,304	23,582
建設仮勘定	183	-
有形固定資産合計	8,804,890	8,493,663
無形固定資産	103,222	114,326
投資その他の資産		
投資有価証券	63,830	54,448
長期貸付金	911,971	887,558
長期前払費用	29,822	28,310
繰延税金資産	10,348	9,881
敷金及び保証金	2,931,177	2,817,438
その他	58,381	56,696
貸倒引当金	737,530	737,157
投資その他の資産合計	3,268,001	3,117,176
固定資産合計	12,176,113	11,725,166
資産合計	14,132,596	13,553,402

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	498,372	486,882
短期借入金	6,843,494	6,431,280
リース債務	5,443	8,875
割賦未払金	60,828	24,838
未払金	214,915	254,654
設備関係未払金	61,985	22,867
未払費用	451,194	446,782
未払法人税等	90,181	56,571
未払消費税等	45,665	80,615
賞与引当金	61,400	66,910
転貸損失引当金	2,680	2,680
その他	447,296	392,253
流動負債合計	8,783,458	8,275,213
固定負債		
長期借入金	11,400	-
リース債務	15,876	26,338
長期割賦未払金	7,301	866
繰延税金負債	115,566	115,445
退職給付引当金	122,052	124,970
役員退職慰労引当金	249,637	264,229
転貸損失引当金	31,367	30,294
その他	68,985	72,034
固定負債合計	622,186	634,179
負債合計	9,405,644	8,909,392
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	909,540	982,324
自己株式	66,105	66,642
株主資本合計	4,744,001	4,670,679
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	24,369	33,690
その他の包括利益累計額合計	24,369	33,690
新株予約権	7,320	7,020
純資産合計	4,726,951	4,644,009
負債純資産合計	14,132,596	13,553,402

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	7,354,636	8,089,676
売上原価	2,711,774	2,983,153
売上総利益	4,642,861	5,106,522
販売費及び一般管理費	1 4,811,240	1 5,060,410
営業利益又は営業損失()	168,379	46,112
営業外収益		
受取利息	17,800	16,990
受取配当金	745	1,027
受取地代家賃	5,353	5,536
貸倒引当金戻入額	1,553	323
その他	16,010	27,574
営業外収益合計	41,463	51,451
営業外費用		
支払利息	90,667	80,451
その他	6,193	5,921
営業外費用合計	96,860	86,373
経常利益又は経常損失()	223,776	11,191
特別利益		
固定資産売却益	2,449	1,079
受取補償金	30,464	-
特別利益合計	32,914	1,079
特別損失		
固定資産除却損	1,298	7
減損損失	-	42,841
賃貸借契約解約損	8,004	5,628
特別損失合計	9,303	48,476
税金等調整前四半期純損失()	200,165	36,206
法人税、住民税及び事業税	34,815	34,480
法人税等調整額	57,091	2,096
法人税等合計	91,907	36,577
少数株主損益調整前四半期純損失()	292,072	72,783
四半期純損失()	292,072	72,783

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	292,072	72,783
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,237	9,320
その他の包括利益合計	1,237	9,320
四半期包括利益	290,834	82,104
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	290,834	82,104

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	200,165	36,206
減価償却費	206,175	176,385
減損損失	-	42,841
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,772	373
賞与引当金の増減額(は減少)	20,500	5,510
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,518	2,918
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,776	14,591
転貸損失引当金の増減額(は減少)	-	1,072
受取利息及び受取配当金	18,546	18,018
支払利息	90,667	80,451
為替差損益(は益)	3	2
固定資産売却損益(は益)	2,449	1,079
受取補償金	30,464	-
固定資産除却損	1,298	7
賃貸借契約解約損	8,004	5,628
売上債権の増減額(は増加)	32,990	28,235
たな卸資産の増減額(は増加)	12,138	62,627
前渡金の増減額(は増加)	22,380	4,217
仕入債務の増減額(は減少)	79,848	11,489
未払金の増減額(は減少)	21,150	39,739
未払消費税等の増減額(は減少)	31,779	35,700
未払費用の増減額(は減少)	53,423	5,609
預り金の増減額(は減少)	57,721	19,446
前受収益の増減額(は減少)	-	25,497
その他	12,200	4,737
小計	43,083	259,547
利息及び配当金の受取額	17,013	16,670
利息の支払額	89,475	80,108
補償金の受取額	30,464	-
店舗閉鎖に伴う支払額	8,004	3,428
法人税等の支払額	66,079	71,953
営業活動によるキャッシュ・フロー	159,164	120,726

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	0	0
有形固定資産の取得による支出	53,113	80,691
有形固定資産の除却による支出	1,177	-
有形固定資産の売却による収入	2,449	154,079
無形固定資産の取得による支出	15,027	14,194
投資有価証券の取得による支出	57	59
敷金及び保証金の差入による支出	5,000	10
敷金及び保証金の回収による収入	89,652	130,291
貸付金の回収による収入	652	646
預り保証金の受入による収入	-	3,049
投資その他の資産の増減額（は増加）	6,541	641
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,836	193,752
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	21,000	21,201
長期借入金の返済による支出	199,459	402,412
割賦債務の返済による支出	111,795	41,376
リース債務の返済による支出	3,175	3,266
自己株式の取得による支出	245	537
自己株式の売却による収入	206	-
配当金の支払額	74	-
その他	300	300
財務活動によるキャッシュ・フロー	335,844	469,094
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	2
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	483,175	154,618
現金及び現金同等物の期首残高	991,516	996,849
現金及び現金同等物の四半期末残高	508,341	842,231

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<p>連結の範囲の重要な変更</p> <p>連結子会社のうち、㈱サリックスマーチャングイズシステムズ(存続会社)と㈱デイリーエクスプレス(消滅会社)及び㈱相澤(存続会社)と㈱二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。</p>

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<p>(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)</p> <p>当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は1,047千円増加し、税金等調整前四半期純損失は1,047千円減少しております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<p>㈱書楽 222,125千円</p>	<p>㈱書楽 211,451千円</p>

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
減価償却費	186,283千円	157,494千円
賞与引当金繰入額	26,792 "	52,690 "
退職給付費用	6,746 "	7,483 "
役員退職慰労引当金繰入額	5,776 "	14,591 "
給料手当	2,203,232 "	2,373,949 "
地代家賃	1,112,181 "	1,065,850 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金	511,355千円	845,246千円
預入期間が3か月を超える定期預金	3,014 "	3,014 "
現金及び現金同等物	508,341千円	842,231千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	(単位:千円) 四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,241,566	808,103	304,967	7,354,636	7,354,636		7,354,636
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	6,241,566	808,103	304,967	7,354,636	7,354,636		7,354,636
セグメント利益又は 損失()	56,524	8,928	28,132	37,321	37,321	205,700	168,379

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	(単位:千円) 四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,867,606	922,778	299,291	8,089,676	8,089,676		8,089,676
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	6,867,606	922,778	299,291	8,089,676	8,089,676		8,089,676
セグメント利益又は 損失()	259,274	61,146	27,026	293,394	293,394	247,281	46,112

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「安楽亭業態」のセグメント利益が550千円増加し、「七輪房業態」のセグメント利益が147千円増加し、「その他業態」のセグメント損失が235千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては19,325千円であります。

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては23,516千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	13円65銭	3円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	292,072	72,783
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	292,072	72,783
普通株式の期中平均株式数(株)	21,395,593	21,395,078
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。